

櫻だより



氷見市立北部中学校

校長室から

令和5年6月28日

賢者と愚者

平成の初めの頃に流行った「大きな玉ねぎの下で」という曲が好きでした。あの頃は「玉ねぎ」が何を意味しているのかも知らずに、口ずさんでいたように思います。先日、歌詞にある九段下の駅を降り、千鳥ヶ淵を見て、「大きな玉ねぎ」を訪れてきました。武道の聖地だけあって、とても重厚な雰囲気、背筋がピンと伸びる思いがしました。靖国神社とともにまた訪れたい場所ですね。



さて、先週（株）INTECの宮下氏の講演を聴きました。50分の時間では、彼の凄さが伝わらなかったと思うので、少し補足します。高校時代は、どんなに部活動の練習で疲れていても、次の日には5時に起きて勉強。（同じことをやろうと思ったが起きることができず・・・）社会人になってマラソンに目覚め、毎朝5時に起きて10kmラン。その後仕事へ。毎週木曜日の夜は、仕事の途中であってもクラブの練習に参加。走った後、また仕事へ。（感化されて40歳でマラソンに挑戦したが・・・）彼は休日に20～30km走るとか。あるときは箱根駅伝の往路を一人で走ったとか。クラウドに関するビジネス書も執筆し、会社における様々な改革も手がけたとか。

やると決めたら妥協せず、やり続ける強い意志の持ち主。いろんなことを知っているけど、知識をひけらかすことはせず、常に謙虚にして驕らず。彼のような人物を賢者、賢人というのだと思う。（そして、賢者になれない自分は・・・）

「賢者と愚者」について、調べてみると色々な言葉が見つかった。

- 賢者は感謝し、愚者は当然と思う
- 賢者には目標があり、愚者には日常のみがある
- 賢者は聴き、愚者は語る
- 賢者は愚者から学び、愚者は賢者から学べず
- 賢者は心を学び、愚者はテクニックを学ぶ
- 賢者は学びたがり、愚者は教えたがる

「賢者」を「宮下氏」に置き換えてみる。まさしくその通りだと思う。では、「愚者」は誰に？ 誰が愚者かと探すことこそ、愚かな者がやることだろう。

「感謝」の心を忘れずに、「目標」をもち、素直な心で話を「聴き」、誰からも「学ぶ」、そんな姿勢を心がけ、賢者と呼ばれる人に近付いていきたいものです。

まずは感謝の心が大切ですね。

駄文を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。